

令和二年度草の根・人間の安全保障無償資金協力に係る署名式の実施

3月17日および18日、令和元年度草の根・人間の安全保障無償資金協力案件の4つの案件の署名式が大使公邸にて開催されました。

署名が行われた4つの案件の実施内容と各代表のあいさつは以下の通りです。

1. 「中央マジョナランド州における地雷除去計画」

このプロジェクトは、国際NGO「ヘイロー・トラスト」に対して644,651米ドルの資金を供与し、ジンバブエ北東部の中央マジョナランド州ルシंगा郡の計156,000 m²のエリアにおいて地雷除去活動を実施することで、本エリアで暮らす地域住民に対する地雷の脅威を取り除き、安全な環境で農業及び畜産に従事できる環境を整えるものです。

フリッカー・プログラムマネージャーは、継続的な日本政府による支援に謝意を表明するとともに、地雷が除去され安全な土地となることで、地方行政やNGO等が開発プロジェクトを実施できる環境が整い、地域発展の促進が期待されると述べました。

2. 「ハラレ市における孤児及び脆弱な青少年のための多目的技術訓練センター建設計画」

このプロジェクトは、NGO「ジクワ・トラストファンド」に対して90,909米ドルの資金を供与し、ハラレ市ジヴァラセクワ地区において、多目的技術訓練センターを建設し、年間およそ3,520人の孤児及び脆弱な青少年が、生計を立てるために必要な技術訓練や、女性や子どもの権利・保護に関する研修を受講し、貧困による負の連鎖から抜け出し、経済的自立を促すことを目的とするものです。

ハティバゴン代表は、多目的技術訓練センターが建設されることで、これまで物理的な制約から手の届かなかった多くの青少年に対し支援の手を差し伸べることが可能になるとともに、人々が持つ孤児や女性に対する偏見や誤った認識を正すことにつながるとし、支援への感謝の意を述べました。

3. 「ハラレ市におけるエイズ孤児及び脆弱な子どものための教育施設及び井戸整備計画」

このプロジェクトは、NGO「チエザ子どもケアセンター」に対して90,877米ドルの資金を供与し、ハラレ市ムバレ地区にある同ケアセンターにおいて、新規教室棟1棟2教室、貴重品室、太陽光発電式井戸設備、及び生徒100名分の机と椅子を整備することにより、教育環境の改善を図り、より多くのHIV孤児及び脆弱な子どもが基礎教育にアクセスできるようになることを目的とするものです。

スピウエ・エグゼクティブダイレクターは、新たな教室棟が完成し適切な学習環境が整備されることで、より質の高い教育を提供できるようになる。また、貧困により学校に通うことのできない子どもたちを追加的に受け入れることが可能になると述べました。

4. 「セケ郡ムヴァンデ小学校校舎整備計画」

このプロジェクトは、NGO「ナカ財団」に対して90,905米ドルの資金を供与し、セケ郡にあるムヴァンデ小学校において、新規教室棟2棟、教員寮1棟、生徒用トイレ棟、教員用トイレ棟を建設し、既存井戸に太陽光発電駆動式汲み上げポンプおよび生徒150名分及び教員4人分の机と椅子を整備することにより、同校における教育・衛生環境の改善を図ることを目的とするものです。

ガリカイ・プログラムダイレクターは、2017年に続き今回2回目の支援を頂けたことにとっても感謝している。プロジェクト完成後には、生徒が適切な学習環境で勉強できるようになるとともに、学校菜園を充実させ、栄養を通じた健康面での支援も行っていくと述べました。

同式典に出席した田中大使は、すべての人が文化的な生活を営む権利を有しているとし、この4つのプロジェクトが、人々の基本的ニーズを満たすに留まらず、社会をより平等かつ包括的なものにするための布石となることを期待すると述べました。



ヘイロートラスト



ジクワトラスト



チエザ子どもケアセンター



ナカ財団



全体写真1



全体写真2